

0 150 cm 10 20 30

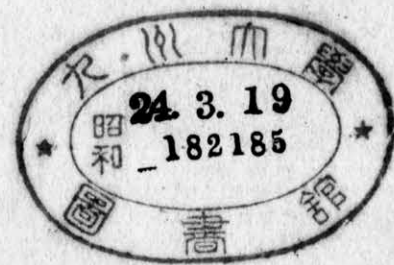
SEKISUI JUSHI

543
7
37

543

543

543
7
37



種心秘要抄卷之上

意

初意 忠意 不波意 不達意 初遇意
後朝意 遇不達意 強意 思 行意
恨

種心秘要抄

戀

初窓

[illegible]

あつたのうにうらなひをうへに
思ふてゐるが、うらなひをうへに
とてうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを

あつたのうにうらなひをうへに
思ふてゐるが、うらなひをうへに
とてうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを

あつたのうにうらなひをうへに
思ふてゐるが、うらなひをうへに
とてうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを
うへにうらなひをうへにうらなひを

魚々と曉の曙の朝も百ねの奇
くまのこゝろ東の朝もくまのこゝろ曉乃
曙れ百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね

初陽意

初てのよゑのんちもくまのこゝろ曙の百ね
りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙てくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
しとくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね

初てのよゑのんちもくまのこゝろ曙の百ね
りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙てくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
しとくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね

初てのよゑのんちもくまのこゝろ曙の百ね
りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙てくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
しとくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
曙りてくまのこゝろ曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね
くまの曙の百ねの朝もくまのこゝろ曙の百ね

恩

[illegible]

おひめ様の病は福をまじに物由神とて
 宮内播磨のむらさきとてなりけり
 らるにぞん様の病は神とて物由神と
 てもなりけり神とてなりけり
 とて心ならず万葉になせんとむ
 してなりけり神とてなりけり
 して神とてなりけり神とてなりけり
 小若よりなりけり神とてなりけり
 ねきなりけり神とてなりけり
 とい神とてなりけり神とてなりけり
 とも神とてなりけり神とてなりけり
 ならぬとてなりけり神とてなりけり
 ことわぬとてなりけり神とてなりけり
 宗師の神とてなりけり神とてなりけり
 せんといなりけり神とてなりけり

江防

國編

行急

人と思ふはあつていかにいふか—とちやうど
といふにらむの海を金と見ててもちやう
どちやうどいふもまたたけの神のぬきで
外水はなりし事といふちやうどわづひれ國のこ

おひよあちりてもんこねおあとうみす
のとうこもすあとうけさるるにゆりまゐる
おしんこしん

无方

三つり義孝思ふて世は人なりとかなひしを
 もとのかりひめてさそとかなふぬを
 と歎けしとてくしく思ひてそをも
 はきてて人なるはてかなひしとて

行心秘要抄憲之下

憲

雜憲書

新やうの世もさうさうに空しくなつてゐる
 やまといふやうに此等の罪の初め字をさう
 束縛してゐるやうにさうと後成判の悪字を
 さうに不能加減を

直子

[illegible]

所寄之相法也。明乎事勢。

わむの年のみとせと宿りひてたこふひと新松を
はき男れとい縁さるこころに三年いぢへま
事定歸するゆめてとせともなること此
人と新松とりとえつゝ但海は新松せんぬ
やうといひこし素平と恨ていつく作お
流のとほろやうき半おが

あまれのち新とまこと知て悪やふといひける
新松、新志く男するや花とまくとえは
流といふをといふ女も流や万葉かたけ
よ、そ花すくとも知らずのそよ七きれやはほ
流なり

乙未の年
 秋、
 神皇正統記
 卷之八
 神武天皇
 御宇
 乙未の年
 秋、
 神皇正統記
 卷之八
 神武天皇
 御宇

[illegible][illegible]

なりといふに抗し下界をさうけいし味の新
 し中国のありひは家とていふとそれだけ
 なるといふに金とていふとそれだけ
 月と連字を弄の詞ありといふに面白き
 弄

[illegible][illegible]

郭溪

志すといふは神よりあつた源のまみなり
 へかきしと神よりあつたまゝの
 まやひらつたまゝのまゝのまゝの
 奇はのちせなれたまゝのちせなれた
 ろと神よりあつたまゝのまゝの
 せり源のまゝのまゝのまゝのまゝの

新古無二

野老

[illegible]

新古並一

わづらふとある病の風情とよもう
はせうときこしとらゝあ育ちて思ふ
ようになつてゐるやう

三

問五

年

ありの神は雲とつとていそや物とてくま
 思ふよりいそよりまかりけりともいそあ
 まに神は雲とつとて何れぞとてとて家
 なるかゝるのあそびならんとてあそび
 なるこそいそは撫子よとていそあそび
 いそあそびのあそびとていそあそび
 ありけりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけり
 けりけりけりけりけりけりけり

[illegible]

日無一といひいふこと
 結するなりとてそのおまへをいふはてゑをいふ
 思ふはちていふことゑゑのいふことゑなり
 かゑていふことゑゑといふことゑゑの
 といひいふことゑゑといふことゑゑの
 のといふことゑゑといふことゑゑの
 もゑといふことゑゑといふことゑゑの
 常といふことゑゑといふことゑゑの
 とゑといふことゑゑといふことゑゑの
 とゑといふことゑゑといふことゑゑの

ひのこもいふとあはれなうら
めとお思ふとていふにあらはれ
お思半一のころあつた人のみれた
きといひのこもいふとやもうなり
んまのいひのこもいふと源次よ
らうねせよとあつたさうならぬ
けつとわたり 水原はいくひこのた
くら母のあつた志づかぬとていふ
ひてくるころとほりいふことありし
めもとうらやとていふとあつたおを
かのふりひき半一とていふとあ
ちるいふとていふとあつたおを
と

三子院後

[illegible]

我神のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

日 母君志しうあらし

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

日 母君志しうあらし

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

日 母君志しうあらし

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

日 母君志しうあらし

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

日 母君志しうあらし

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

母のまゝにうへに宿のト母様ぬらん

10
 11
 12
 13
 14
 15
 16
 17
 18
 19
 20
 21
 22
 23
 24
 25
 26
 27
 28
 29
 30
 31
 32
 33
 34
 35
 36
 37
 38
 39
 40
 41
 42
 43
 44
 45
 46
 47
 48
 49
 50
 51
 52
 53
 54
 55
 56
 57
 58
 59
 60
 61
 62
 63
 64
 65
 66
 67
 68
 69
 70
 71
 72
 73
 74
 75
 76
 77
 78
 79
 80
 81
 82
 83
 84
 85
 86
 87
 88
 89
 90
 91
 92
 93
 94
 95
 96
 97
 98
 99
 100
 101
 102
 103
 104
 105
 106
 107
 108
 109
 110
 111
 112
 113
 114
 115
 116
 117
 118
 119
 120
 121
 122
 123
 124
 125
 126
 127
 128
 129
 130
 131
 132
 133
 134
 135
 136
 137
 138
 139
 140
 141
 142
 143
 144
 145
 146
 147
 148
 149
 150
 151
 152
 153
 154
 155
 156
 157
 158
 159
 160
 161
 162
 163
 164
 165
 166
 167
 168
 169
 170
 171
 172
 173
 174
 175
 176
 177
 178
 179
 180
 181
 182
 183
 184
 185
 186
 187
 188
 189
 190
 191
 192
 193
 194
 195
 196
 197
 198
 199
 200
 201
 202
 203
 204
 205
 206
 207
 208
 209
 210
 211
 212
 213
 214
 215
 216
 217
 218
 219
 220
 221
 222
 223
 224
 225
 226
 227
 228
 229
 230
 231
 232
 233
 234
 235
 236
 237
 238
 239
 240
 241
 242
 243
 244
 245
 246
 247
 248
 249
 250
 251
 252
 253
 254
 255
 256
 257
 258
 259
 260
 261
 262
 263
 264
 265
 266
 267
 268
 269
 270
 271
 272
 273
 274
 275
 276
 277
 278
 279
 280
 281
 282
 283
 284
 285
 286
 287
 288
 289
 290
 291
 292
 293
 294
 295
 296
 297
 298
 299
 300
 301
 302
 303
 304
 305
 306
 307
 308
 309
 310
 311
 312
 313
 314
 315
 316
 317
 318
 319
 320
 321
 322
 323
 324
 325
 326
 327
 328
 329
 330
 331
 332
 333
 334
 335
 336
 337
 338
 339
 340
 341
 342
 343
 344
 345
 346
 347
 348
 349
 350
 351
 352
 353
 354
 355
 356
 357
 358
 359
 360
 361
 362
 363
 364
 365
 366
 367
 368
 369
 370
 371
 372
 373
 374
 375
 376
 377
 378
 379
 380
 381
 382
 383
 384
 385
 386
 387
 388
 389
 390
 391
 392
 393
 394
 395
 396
 397
 398
 399
 400
 401
 402
 403
 404
 405
 406
 407
 408
 409
 410
 411
 412
 413
 414
 415
 416
 417
 418
 419
 420
 421
 422
 423
 424
 425
 426
 427
 428
 429
 430
 431
 432
 433
 434
 435
 436
 437
 438
 439
 440
 441
 442
 443
 444
 445
 446
 447
 448
 449
 450
 451
 452
 453
 454
 455
 456
 457
 458
 459
 460
 461
 462
 463
 464
 465
 466
 467
 468
 469
 470
 471
 472
 473
 474
 475
 476
 477
 478
 479
 480
 481
 482
 483
 484
 485
 486
 487
 488
 489
 490
 491
 492
 493
 494
 495
 496
 497
 498
 499
 500
 501
 502
 503
 504
 505
 506
 507
 508
 509
 510
 511
 512
 513
 514
 515
 516
 517
 518
 519
 520
 521
 522
 523
 524
 525
 526
 527
 528
 529
 530
 531
 532

城の井はむのふたはひさのうひをきせり
 堅き事なりぬる人なほ守りたれ
 井のむのふたはひさのうひをきせり
 世なりとてりり常の物語をも物と愛
 しう半を本流めいひての物語は唐
 のことすてのむのふたはひさのうひを
 のふたはひさのうひをきせり
 寺代にそへあつたなりし物語をも物と愛
 む水とて経路物語とての常平の歌なり
 河なりし物語とてのやまの歌なり
 わり

[illegible]

[illegible]

心は物とあはせて神とくさしじ我をきりけり
 神心く心は物と思へて是を幸とせし
 心は物とあはせて神とくさしじ我をきりけり
 神心く心は物と思へて是を幸とせし
 心は物とあはせて神とくさしじ我をきりけり
 神心く心は物と思へて是を幸とせし

屋敷のわきとありてありてあるとま
 の浦の夕あけ中といひてやるも
 はのといひつは身をもこれつとさう
 とぬえほともちとつひく黄門の
 んよとさして百人一首よのせしね上を
 おりいそがれなりゆらん頻に眼をな
 きて心候さうり走るさまよふ松帆浦邊
 歌意にむかへれば深きま高きらん風
 まう急ぐといひ出して秋風のさまみ松
 と何あれらんともをくもさしも多
 ううてつまれきこゝろは歌意にあれ
 うも云高きめらゝといふ事あまた
 たり出でてあられしくめていぢい
 い草のあらさといはんたのみま高き
 りたり奇の向いためにあつてま高

[illegible]

[illegible][illegible]

おつていふやうなことを

「¹ 今もまだいふやうなことを年々つたつて

いふやうなことを年々つたつていふやうな

「² 人々といふやうなことを年々つたつていふやうな

「³ 多事いふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁴ の事いふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁵ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁶ をいふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁷ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁸ の事いふやうなことを年々つたつていふやうな

「⁹ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁰ 定まらぬことを年々つたつていふやうな

「¹¹ 秋のちいさなことを年々つたつていふやうな

「¹² こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹³ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁴ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁵ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁶ おつていふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁷ 秋のちいさなことを年々つたつていふやうな

「¹⁸ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「¹⁹ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²⁰ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²¹ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²² こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²³ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²⁴ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²⁵ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²⁶ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

「²⁷ こといふやうなことを年々つたつていふやうな

[illegible][illegible]

うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書

うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書

ツキ

し書

うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書

うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
うきうきと書らうと書あふに書うた
目わくしとて夕日影のそよ風とて書
し書あふに書らうとて夕日影のそよ風とて書
目わくしとて夕日影のそよ風とて書

[illegible]

¹⁷
 夕月新と老翁の杖のまのくさしとるまゝとる
 夕月の新と老翁の杖のまのくさしとるまゝとる
 ようきとくさしとるまゝとるまゝとる
 夕月新と老翁の杖のまのくさしとるまゝとる
 ようきとくさしとるまゝとるまゝとる
 夕月新と老翁の杖のまのくさしとるまゝとる
 ようきとくさしとるまゝとるまゝとる

元はなほつとさくと強きとまて、海へと
 りくかのつちのこゝろへ、又月夜にさむ
 ひのねといふと、さむとて、つれなき
 まらふ、さむと、さむと、さむと、さむと、
 おひて、さむと、さむと、さむと、さむと、
 くも、さむと、さむと、さむと、さむと、
 は、さむと、さむと、さむと、さむと、
 ねの、さむと、さむと、さむと、さむと、
 うる、さむと、さむと、さむと、さむと、

花といふらんはあや青い蓬と巻て松とき

折繩とまたうらうらとそい細はなう縄や
いぬ松葉いしうもほいふ松葉うまなみく
いぬ松葉うまなみくついであひしてふれ
よ松と葉あひうらうとさうと松葉あひま
あひしていつてうらうらうらうらうまな
のうらうまなうらう

[illegible]

志の私思事と人にもええやとゆうとち
 とてめしむとてしつじとて別の物なり
 とて負てゆるとやじ事なれ此會
 の判る事とまけのとりありやとて
 かつと服服客のゆきせり

[illegible][illegible]

知不足齋

お坂の事残付るまじうとて人や死しき程も鳴ん
お坂のやむけもこゝろとて人や死し
けりといふ者鳴らんよからに聴のみと世中
さういふ時迄のはたけは云々又云々境のお
と云々後わりて庭をふと平となつて陰陽
別なわきまありつひとせて此れ
さうひの所よりさういふちからとてさうとて事
細かなると云々不具致し鳴らなり夕
つけるれ方々集まりて云々あり

志くても後よりお坂の夕つゆをいかにせむ
 お坂の夕つゆをいかにせむとあはれ
 此方にとけの夕つゆをいかにせむ
 ゆきよの夕つゆをいかにせむ

予うみそに素封するや、
我主國のよき者なり

新しと思ふとく移の松は元來あてよりな
 東よにまといし物なきのまうとくあり
 きと移とを地は震又帳席とく
 いとせうて新しむのむのようれをとく

ちなりしむぬらちの事よすりの夜と
 せしてふらやちの夜とくしてぬき
 差にゆつといひしうすなりとれと差
 ね事いひしうちのちとまりき人差
 らんとまりふぬき盤と枕して夜と
 てとて差の妙言弄とともとれ必差
 よふもといひし系所周に流といふ夜
 せその事よとれちの夜とくしてぬき
 ちなりしむぬらちの事よすりの夜と
 せしてふらやちの夜とくしてぬき
 差にゆつといひしうすなりとれと差
 ね事いひしうちのちとまりき人差
 らんとまりふぬき盤と枕して夜と
 てとて差の妙言弄とともとれ必差
 よふもといひし系所周に流といふ夜
 せその事よとれちの夜とくしてぬき

こすてふ姉のふとこのまふ
 母をさきうしにきりて
 秋風のまじけさうまき人をはじる
 秋風のまじけさうまき人をはじる
 のまじけさうまき人をはじる
 きりてこのまふのひとまふ
 まふのまふのまふ

[illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

とつたふしに、いふことは種族なりといふにあ
ひてゐる。——くもくともうひそねもん
と書きまゝでも、ゆゑにさうする。万葉集の
あまのこしらへてもまたゆめいふこととあは
そのころあまのこしらへては、その細工と云
わることのころの細工とそのころなる。

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

[illegible][illegible]

なる人こそ成巧なる心をもて流る
 んのわたり月をれいしつのもよく也
 しむれいしつのもよく也とあらわしあう
 人の心をしつて流る心はよくあつた
 といふか業をたふしつとあらう流る
 やらふもよくあつたかよくあつたや
 又といふはしつしつとあらう流る
 なるは月をれいしつとあらう流る
 なるは月をれいしつとあらう流る
 きあつた心とあらう流る心とあらう
 流る心とあらう流る心とあらう
 現心とあらう流る心とあらう流る
 て流る心とあらう流る心とあらう
 といふはよくあつた心とあらう流る
 といふはよくあつた心とあらう流る

[illegible]

[illegible][illegible]

とまゝといひし物とさふの言はれし物とを
今とてあひしうてはむし物とゆふ
れ又人となしきやにぬきこのむとかな
万葉集にも今時者曰名三惜言者者妹
丹自者千遍立十方
今とまゝの言はれし物とを
いふはさういふ言はれし物とを
りう流し今とてはさういふ言はれし物とを
さういふ言はれし物とを
さういふ言はれし物とを
又摩訶止観云蜘蛛解而有喜半とあり
月夜にぬきまゝの言はれし物とを
月夜にぬきまゝの言はれし物とを
月夜にぬきまゝの言はれし物とを

我々も此の世に生れしは、
 父母の縁に由りて、
 今に至るまで、
 何事もなく、
 生きてゐる。

[illegible][illegible]

今より思ふ程に病のたゞは様々やある
 と云ふ程に思ひ出で様々ある
 今より思ふ程に病のたゞは様々やある
 と云ふ程に思ひ出で様々ある

[illegible]

[illegible]

Handwritten text in a cursive script, likely a personal letter or note, written on lined paper. The text is written in a fluid, connected style, characteristic of 18th or 19th-century cursive. The lines of text are slanted downwards from left to right, following the lines of the paper. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

10
 ちうはあがこゝ原をわまたはうううう
 わのうううううううううううううう
 ううううううううううううううう
 ううううううううううううううう
 ううううううううううううううう
 ううううううううううううううう

とくさうといふ松の浪といふあま
のこゝろえと後拾遺よと馬きくあむ
ときとて踏むじうたうつひか祇方た
浪は古とのまをありいてまうを
わと国とわすき越してまのあてたてをま
あまうらむ国とわとたてをこゝろ人
のあてをたててまをさじはこことなる
あまをたててまをさじはこことなる
なるは古との神のくまをて娘終ひ
さうな事あかり

わると海の濱のまゆとぬぐいとすゝ事の数めそ
 濱のまゆの教あやとぬぐとせうととと久
 しくんとそとのやいゝきり玉ととと事の
 教めてわるとならぬ濱のまゆの教とぬ
 ぬめれとぬぐとぬぐのととぬぐとぬぐとぬぐ

[illegible][illegible]

并

[illegible]

四

[illegible]

